

床屋のご主人へ

ラジオネーム…ブリティッシュロック

ご主人、お久しぶりです。そちらでも元気でやっていますか？

はやいもので、ご主人が亡くなってから3年も経つんですね。

当時は、突然の悲報にとても驚いたものです。

ご主人と僕の関係は、床屋のオーナーとその客。

会ってもせいぜい、数カ月には1度くらいの頻度です。

でも僕にとって、ご主人に髪を切ってもらったあの時間は、

とても心地が良いものでした。店内は少し年季が入って、

僕の知らない昔の曲ばかり流れ…でも、その雰囲気は

僕にとってはとても落ち着く場所だったんです。

そしてご主人はとても聞き上手でした。

学校や家の事、就職してからは会社の愚痴など、

ついつい色々話を聞かせてしまいましたね。

ご主人の、心地良い相槌が好きでした。

かれこれ、10年くらいはお世話になっていたでしょうか？

そんなご主人との思い出が一番印象的だったのが、

僕が大学生の時。失恋して落ち込んでいるのを見かねて、

「かっこよくなってその娘を見返そう」と言って、僕の髪型を

大幅にイメチェンしてくれましたよね。と言っても、その時は髪を脱色して白くしただけ。あまりの似合わなさに、二人で鏡に向かって大笑いしたことを、今でもしっかりと覚えていました。あの出来事のおかげで、失恋も吹っ切れたし、逆に急に白髪になったことで、大学でも一時期は注目される日が続きました。ご主人が亡くなってからは、家の近くにある美容室に通っています。店内、そして店員の皆さんもおしゃれで、かっこいい洋楽が流れているんです。正直、その雰囲気にとっても緊張してしまいます。そして、髪を切るたびにご主人のお店の心地よさを思い出します。いつかお会いできたら、また僕の髪を切ってください。そして、二人で色々話して、大笑いしましょう。

リクエスト曲

へ 髪を切る日

／

榎原敬之

く